

すずむし

Vol. I, No. 7

1951年7月

倉敷昆虫同好会

倉敷の *Limenitis*

白 神 昭

七月号に倉敷の *Limenitis* についてイナモンジヤウがいろいろないが判然しないも述べたが、その後6月20日倉津及び黒田に各1頭を発見採集した。これら倉敷のイナモンジも確認されたわけである。両種共に上記の場所以外で採集した試みない。龍山あたりでは採集される可能性大である。日本昆虫図鑑には、非常に珍しい蝶に書かれていたが、林廣二郎氏の日本産蝶類解説には、北海道からは未知、本州では青森県より西は中日地方に至るまで山地に広く分布し、東北地方では平地にも産する。九州には稀、大分鹿児島両県より知られる。以上の分布から推して山口山地よりも発見の可能性が多い。本種の分布区域は全て前種の分布区域内に含まれ、両種は山地では混生している。概して前種より個体数は少ないが本州東半では両種が同数、時には本種(アサマ)の方が個体数の多い区域もある。と述べられている。私も本甲山でアサマばかり採集しており、同所に採集していた中学生もアサマばかり採っていた。(6月10日)しかし6月11日箕面で採集したものは全てイナモンジ許りでし。戸沢信義氏の昆虫を採る箕面能勢(1948)にもアサマの記録は見えない。

「ホシミスダの産卵について」

広瀬義躬

去る7月1日筆者は倉敷市田の上の自宅附近でホシミスダの産卵を観察した。幸い本誌No.6にホシミスダについてのことを青野さんが書かれて居れるので興味の湧くまゝに筆者の気づいたことを追記して見ようと思う。産卵を観察したのは午前12時前後で大体成虫の活動時間と一致する。産卵を行った個体は羽化後数日を経たぬものと思われる。先ず産卵場所の環境について述べる、一方は道路に面し一方は人家の壁に接する小さな庭で多数の

2 (38)

樹木と草が生育して居る。成虫はニル等木々の間を低く飛びながら産卵は本種の食草として知られるシモリケ科の *Spicaea* 属のコゴメバナ（ユキヤナギ）の葉上に行なわれる。卵は一粒成いは二粒稀に三粒主に葉裏の部分に産附される時に葉表に行なわれる。その割合は下表の様である。葉には絶対に産附されず葉の部分では主に中央部附近に産附される様である。また新芽、若葉といったようなものには産卵するのを見ない。なお筆者が気づいたことは2

一枚の葉に産卵卵の数	葉数	割合(%)
1 個	16	84.2
2 〃	2	11.1
3 〃	1	5.2
計	19	100%

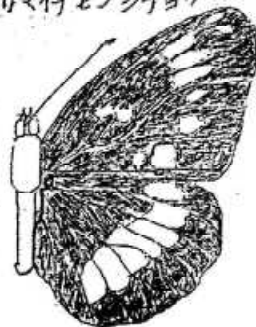
産卵場所	産卵数	割合(%)
葉表	3	13.0
〃 裏	20	87.9
計	23	100%

枚もあるコゴメバナに於てその上部附近には全額産卵が行なわれず主に地上10cm~1m附近に産卵された。これは多少環境が交配するのであろうと思う。産卵状態は俗に食草のあたりをゆるやかに飛び食草の小枝の先の方の葉に止ってぐいと尾端を曲げて体をそろせ翅は半開状態で葉にぶらさがっているような状態で押し出すようにして産附する。産卵に要する時間は2秒乃至3秒で産卵を2、

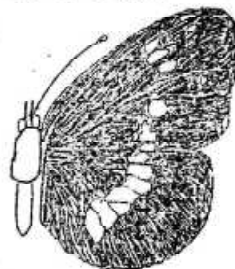
3回行っては少し離れた他の植物の葉上又は家の軒の上止って休むという風である。成虫はこの動作を3、4回くり返して後約20分後に他方へ飛び去つて。産卵数は成虫の飛来前にも産卵されていたのをハッキリとした数字はわかりないが約15個程度だろうと思う。なお当日は曇天でむしろ暑い一日であったが気温湿度がわかりな日のは残念である。

以後産卵を観察し得ぬが卵及幼虫は多く見られるようである。たゞ一回の観察なので不十分な点が多いが筆者は今後も本種について観察を行い不十分な点は充分徹底して又の機会に飛来しようと思う。なおホシミスガの生態史その他について知見を御持の方は御知らせ下されば幸である。(1951.7.10)

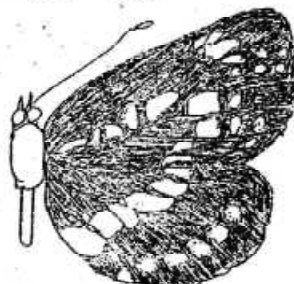
アサマヤモンジヤウ



14モンジヤウ



ホシミスガ



ウラジロミ ドリを採る

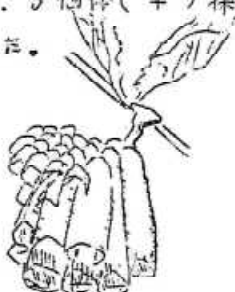


「おとし」第3号の
おとしぶみに白神氏がウ
ラジロミドリシジミに似
た疑同種について書いて
おられましたが、私も実
はこんな平地で山の残い
倉敷附近に居るのだろう
かと疑問に思っていたの
ですが、その後倉敷西小学
理科教室にあった山川先生探る黒田
く/分の標本を檢してある倉敷の本
種が確認されているのを知り、本年
6月10日黒田に採集に行った際を
附けていましたところ、頭上のクヌ
ギの葉上にやうひろと飛来静止した
本種を見まして一網打盡にしました。
完全新鮮な個体で合でした。
これで白神氏の採った本種らしきも
のを一緒に数えるとすれば、倉敷で
4個体が採れたことになります。

追記

く小野 洋つ

後、6月20日、同所に
て深谷先生、青野・小野・白神等に
依つて、3個体(♀)採集2個体目
撃された。



今年のウスイロ オナガシジミ

昨年頃から倉敷で見られ
問題となっている本種はいまだ倉
敷では数個体しか採れていない。

本年に入つて6月10日、黒田に
採集に行った際、本種1個体を採
集しました。非常に小さくやっ
で新鮮な完全品でした。6月10
日と云えばいまだやっせくアカシ
ジミはもう出盛りだがウラナミ
アカシジミ、ミズイロオナガシジ
ミ、オオミドリシジミなどが出始
めた頃。或は出盛りの頃であります。
今までミズイロオナガシジミ
の出現期よりやっ本種の出現期を
遅いと思つていた私の考は違つ
ていた様です。(く小野 洋)

クロツバメシジ ミの新産地

1 6月27日午後、倉敷市阿
知町の自宅でクロツバメシジミを
採集しました。最初ヤマトシジ
ミと思つていましたか白神さんに
依つてクロツバメシジミと判りま
した。阿知町の碓氷町中に居るの
は不思議です。(若林三郎)

2 7月4日、

倉敷市旭町自宅でク
ロツバメノ不完全個体を



4(36)

得したのでお知らせします。

（白神 昭）

フタツメホソヒデ
ナカカミキリ

別名マハズハナ リとも言うて、
各地に少くはありますが、今般では
白神氏が採られているものばかりであ
まり周知ないので報告してあります。

1951年6月10日 清音村黒田 / 早

筆者採

1951年6月10日 清音村黒田 / 今

青野氏採

黒田附近ではかなり発生している
ものと思われる。(小野 洋)

鶴形山のカミキリ数種

1. キマダラカミキリ 燈火に
飛来せし / 早を採集する。VI-28,
1951。羽島山でも / 今を採集す
れり。 VI-28, 1951

2. ミラホミカミキリ 筆者採
集。東小字の王使に依って採集す
れたらしいが、めぐりめぐって返
に私の手に入った。VI-10, 1951。

3. ルリカミキリ よく垣根に
用いられる道木で木の先の部分の
葉の生く下で木で相当発見された
食害しているのが何をしているの
かわからない。羽島山でも同種
は所で発見された。

4. VI-18, 1951。龍角の長 / 不
明種を採集している。

5. さら他。アトモテルゲン?
ミキリ。ウツコウカミキリ等微小木
を採集している。(白神 昭)

鶴形山のカミキリ

ハナダカカメムシ 鶴形山
本宮寺墓地にてヤマニンジン? に
た本種を採集しました。 V-30, 1951。
同所と同じくヤマニンジンの花上に
1頭採集す。VI-1, 1951

2. ヒメヤバネカメムシは先
に私が本誌上に発表しましたが、尾
崎王考君の標本を検しました。筆
者と同じように燈火に飛来したと認
めである。

3. オオヤンカメムシ VI-18, 19
51。ノミザの葉上にいて1頭を採集し
た。この南國的なカメムシを手に
して雀躍りした。(白神 昭)

編集後記

録の森に虫の美しい姿が活潑に
動いています。採集観
察の絶好の季節です。

皆様の手で本誌も

一人ひとりに立派に育

って感謝しています。



すづむし (Vol. I, No. 6)

印刷 昭和26年6月20日

発行 昭和26年6月30日

編集者 白神 昭

印刷者 白神・反野良一

発行所 倉敷西小中学校理科教室

や倉敷昆虫同好会

(非売品)